



平成 22 年 10 月 25 日

各 位

会 社 名 フジテック株 式 会 社
 代 表 者 名 代表取締役社長 内 山 高 一
 (コード番号 6406 東証・大証第一部)
 問 合 せ 先 取締役 専務執行役員
 財務本部長 北川由雄
 (TEL. 0749-30-7111)

業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、連結決算において米国連結子会社における売上債権の回収不能見込み額を特別損失に計上するとともに、個別決算において当該関係会社株式評価損を計上することを決定いたしました。これに伴い、平成 22 年 5 月 12 日に開示した平成 23 年 3 月期第 2 四半期(累計)および通期の業績予想を以下のとおり、修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 23 年 3 月期 連結業績予想数値の修正

(金額の単位:百万円)

(1) 第 2 四半期連結累計期間(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	49,000	1,800	1,900	1,700	18 円 17 銭
今回修正予想 (B)	49,500	2,200	2,300	1,100	11 円 75 銭
増 減 額 (B-A)	500	400	400	△600	—
増 減 率 (%)	1.0	22.2	21.1	△35.3	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	49,068	634	1,010	76	0 円 82 銭

(2) 通期(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	107,000	5,300	5,400	3,700	39 円 54 銭
今回修正予想 (B)	103,000	5,300	5,300	2,700	28 円 85 銭
増 減 額 (B-A)	△4,000	0	△100	△1,000	—
増 減 率 (%)	△3.7	0.0	△1.9	△27.0	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月期)	106,137	5,288	6,053	4,061	43 円 40 銭

(3) 修正の理由

平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績については、売上高は前回予想並みとなる見込みです。損益面では、個別での増益により、営業利益は 22 億円、経常利益は 23 億円を見込んでいます。第 2 四半期連結累計期間の純利益は、米国連結子会社における貸倒損失 9 億 6 百万円を特別損失に計上したことにより、11 億円となる見込みです。

平成 23 年 3 月期通期連結業績については、売上高は、為替の円高の影響や北米での減少により 1,030 億円となる見込みです。損益面では、営業利益は個別での増益の一方、北米の採算低下により、53 億円、経常利益は為替差損の影響等で 53 億円を見込んでおります。当期純利益は、上記特別損失の計上により、27 億円となる見込みです。

2. 平成 23 年 3 月期 個別業績予想数値の修正

(金額の単位: 百万円)

(1) 第 2 四半期累計期間(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	24,000	△200	1,400	1,400	14 円 96 銭
今回修正予想 (B)	25,300	250	1,500	△1,800	△19 円 24 銭
増 減 額 (B-A)	1,300	450	100	△3,200	—
増 減 率 (%)	5.4	—	7.1	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	23,233	△1,572	195	95	1 円 02 銭

(2) 通期(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	52,000	1,000	3,000	2,400	25 円 65 銭
今回修正予想 (B)	52,000	1,500	3,100	△900	△9 円 62 銭
増 減 額 (B-A)	0	500	100	△3,300	—
増 減 率 (%)	0.0	50.0	3.3	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 3 月期)	51,283	130	2,612	2,725	29 円 12 銭

(3) 修正の理由

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間の個別業績については、売上高は新設工事および輸出が増加し、253 億円となる見込みです。営業利益は原価低減や固定費圧縮の継続により、2 億 50 百万円となり、経常利益は為替差損の影響もあり、前回予想を 1 億円上回る 15 億円を見込んでおります。第 2 四半期累計期間の純損益は、関係会社株式評価損 35 億 81 百万円を特別損失に計上したことにより、18 億円の純損失となる見込みです。

平成 23 年 3 月期通期個別業績については、売上高は前回予想から変更ありません。営業利益は、第 2 四半期累計期間の損益改善により、15 億円を見込んでいます。経常利益は営業増益の一方で、為替差損の影響もあり、31 億円を見込んでいます。通期純損益は、上記特別損失の計上により、9 億円の純損失となる見込みです。

3. 特別損失の計上

- (1) 米国建設業界の急激な悪化を背景に、米国連結子会社において、請求や回収が困難となった客先への売上債権の回収可能性を検討した結果、第 2 四半期連結累計期間の連結決算において、その回収不能見込み額 9 億 6 百万円を貸倒損失として特別損失に計上することといたしました。
- (2) 第 2 四半期累計期間の個別決算において、米国連結子会社株式の実質価額が著しく低下し、回復が困難と認められるため、関係会社株式評価損 35 億 81 百万円を計上することといたしました。
なお、個別決算の当該株式評価損は、連結決算上で消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

(注) 上記の業績予想は、現時点における入手可能な情報に基づいており、実際の業績は、様々な要因により予想数値と異なることがあり得ます。

以上